

## 14 涅槃図(ネハンス)

指定 昭和 52 年 3 月 5 日 町指定 有形一絵画  
所在地 鹿児島県屋久島町宮之浦  
管理者 屋久島町

釈迦の入滅(僧が死ぬこと)を仏教用語で涅槃と言いが、中国や日本ではこの時の様子を仏教画として描いているのが一般的である。絵の構成は、中央に大きく北を枕に右脇を下にして釈迦の臥像が置かれ、周囲には鳥獣虫魚など 52 種類の動物たちが釈迦の入滅を嘆き悲しんでいる姿が描かれている。この涅槃図は、18 世紀中期薩摩の画人であり僧侶でもあった野津藤兵衛が釈迦の線を経文で書き表したものである。

野津藤兵衛親倍は、鹿児島城下に会って仏教を修め、大観自在無人菩薩と自称し、経文の文字を細書きにして、仏像になるように書くことに優れていた。本図は親倍の壮年期の作品で、題材、大きさ、画風ともはつきりしており、保存状態も良好で、貴重な美術品といえる。